

マイクロマシン／MEMS 分野関連 【2020 年 2 月の経済報告】

令和 2 年 2 月 25 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。今月の経済報告をお届けします。

掲載内容

1. 全般動向（内閣府発表 景気動向指数より）
2. 各経済指標
 - ・内閣府公表 月例報告、機械受注統計調査報告 より
 - ・経済産業省公表 鉱工業指数調査より
3. その他の動向

1. 全般動向

■ 景気動向指数（内閣府、令和 2（2020）年 2 月 7 日発表） （令和元（2019）年 12 月分速報より抜粋）

12 月の CI（速報値・平成 27(2015)年=100）は、先行指数：91.6、一致指数：94.7、遅行指数：106.9 となった（注）。

先行指数は、前月と比較して 0.8 ポイント上昇し、8 か月ぶりの上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.07 ポイント下降し、18 か月連続の下降となった。7 か月後方移動平均は 0.50 ポイント下降し、19 か月連続の下降となった。

一致指数は、前月と比較して横ばいとなった。3 か月後方移動平均は 1.90 ポイント下降し、3 か月連続の下降となった。7 か月後方移動平均は 1.05 ポイント下降し、14 か月連続の下降となった。

遅行指数は、前月と比較して 2.5 ポイント上昇し、2 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.90 ポイント上昇し、4 か月ぶりの上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.34 ポイント上昇し、5 か月ぶりの上昇となった。

詳細は以下の内閣府 HP をご参照下さい。（景気動向指数の概要 pdf へ）

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201912psummary.pdf>

2. 各経済指標

■ 月例経済報告（2月）（内閣府、令和2年2月20日（木）公表） （月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料より）

<日本経済の基調判断>

- ・ 景気は、輸出が弱含むなかで、製造業を中心に弱さが一段と増した状態が続いているものの、緩やかに回復している。
 - 個人消費は、持ち直している。
 - 設備投資は、緩やかな増加傾向にあるものの、一部に弱さがみられる。
 - 輸出は、弱含んでいる。
 - 生産は、引き続き弱含んでいる。
 - 企業収益は、高い水準にあるものの、製造業を中心に弱含んでいる。企業の業況判断は、製造業を中心に引き続き慎重さが増している。
 - 雇用情勢は、改善している。
 - 消費者物価は、このところ上昇テンポが鈍化している。

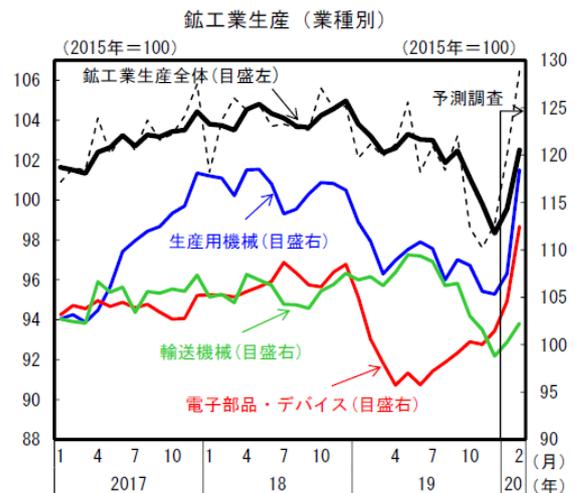
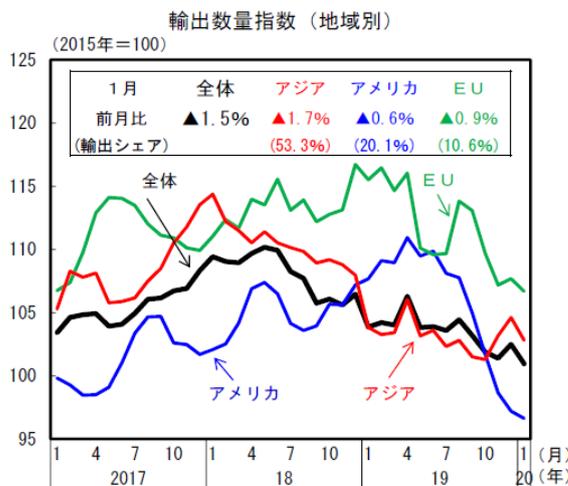
（先行き）

- ・ 先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されるが、新型コロナウイルス感染症が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある。また、通商問題を巡る動向等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響にも留意する必要がある。

5. 輸出・生産

- 海外経済の減速を背景に輸出は弱含みが続いている。
- 12月までは世界的なITサイクルの底入れにより、アジア（中国）向け輸出に下げ止まりの兆しもみられていたが、春節の影響による減少に加え、先行きは新型コロナウイルス感染症の影響による下押しが懸念される。

- 生産は、電子部品・デバイスには持ち直しの動きがみられるものの、全体としては輸出の弱さに台風の影響（部品供給の滞り等）が加わり、引き続き弱含んでいる。
- 先行きは、サプライチェーンの回復とIT関連需要の高まりから増加が見込まれていたが、輸出同様、新型コロナウイルス感染症の影響による下押しに注意が必要。



(備考) 1. 左図は、財務省「貿易統計」により作成。内閣府による季節調整値。実線は3か月移動平均、破線は単月の動き。
2. 右図は、経済産業省「鉱工業指数」により作成。季節調整値、実線は3か月移動平均、破線は単月の動き。

詳細は以下の内閣府 HP をご参照下さい。（月例経済報告資料 pdfへ）

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2020/02kaigi.pdf>

■ 設備投資（令和2年2月19日 内閣府 経済社会総合研究所 公表より抜粋）
令和元年12月実績： 機械受注統計調査報告

1. 機械受注総額の動向をみると、2019（令和元）年11月前月比3.6%増の後、12月は同9.7%減の2兆1,070億円となった。
2. 需要者別にみると、民需は前月比9.7%減の1兆178億円、官公需は同23.3%減の2,023億円、外需は同2.4%増の7,951億円、代理店は同2.9%減の1,142億円となった。
3. 民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2019（令和元）年11月前月比18.0%増の後、12月は同12.5%減の8,248億円となった。このうち、製造業は同4.3%増の3,726億円、非製造業（除く船舶・電力）は同21.3%減の4,660億円となった。

対前月(期)比

(単位:%)

需要者	期 月	2019年 (平成31年) 1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	2019年 (令和元年) 7-9月 (実績)	10-12月 (実績)	2020年 (令和2年) 1-3月 (見通し)	2019年 (令和元年) 9月 (実績)	10月 (実績)	11月 (実績)	12月 (実績)
受注総額		-10.4	1.1	3.1	-6.1	-5.3	-18.7	5.2	3.6	-9.7
民需		-0.9	7.1	2.1	-5.2	-4.6	-20.8	1.8	11.9	-9.7
〃（除船電）		-3.2	7.5	-3.5	-2.1	-5.2	-2.9	-6.0	18.0	-12.5
製造業		-7.7	2.5	-0.9	-3.6	-3.9	-5.2	-1.5	0.6	4.3
非製造業（除船電）		-0.3	13.1	-7.3	2.4	-6.7	2.6	-5.4	27.8	-21.3
官公需		-24.1	40.4	-4.5	-11.5	-22.4	-45.2	40.8	-8.7	-23.3
外需		-12.3	-14.6	6.8	-7.0	1.4	-12.6	2.9	-11.5	2.4
代理店		-5.7	1.8	-5.6	-2.3	5.1	0.9	-3.9	1.7	-2.9

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の内閣府 HP をご参照下さい。

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1912juchu.html>

■ 鉱工業指数調査（経済産業省 2020年2月17日発表 より抜粋）

結果の概要【2019年12月分】

鉱工業指数（生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数）、製造工業生産予測指数
～ 製造業の動きから見る日本の景気 ～

<概況>

・製造工業生産能力指数は、98.2で前月比-0.1%の低下。

低下業種：生産用機械工業同-0.9%、電気・情報通信機械工業同-0.1%

上昇業種：電子部品・デバイス工業同0.1%、石油・石炭製品工業同0.1%

・製造工業稼働率指数は、95.1で前月比-0.4%の低下。

低下業種：輸送機械工業同-4.1%、電気・情報通信機械工業同-2.7%、汎用・業務用機械工業同-1.9%等

上昇業種：生産用機械工業同9.6%、金属製品工業同5.5%、電子部品・デバイス工業同2.4%等

製造工業生産能力指数、2015年=100

生産能力	原指数		
	指数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
	98.2	-0.1	-0.5

製造工業稼働率指数、2015年=100

稼働率	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比 (%)	指数	前年同月比 (%)
	95.1	-0.4	94.5	-7.4

鉱工業指数、2015年=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比 (%)	指数	前年同月比 (%)
生産 (速報値)	98.8 (98.9)	1.2	101.4 (101.5)	-3.1
出荷 (速報値)	96.7 (96.4)	0.3	101.0 (100.7)	-3.4
在庫 (速報値)	104.2 (105.0)	0.9	101.8 (102.6)	1.3
在庫率 (速報値)	116.8 (136.0)	0.8	109.4 (127.4)	6.1

なお、詳細は以下の経済産業省 HP をご参照下さい。

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

<2019年12月の製造工業生産能力指数・稼働率指数の動向>

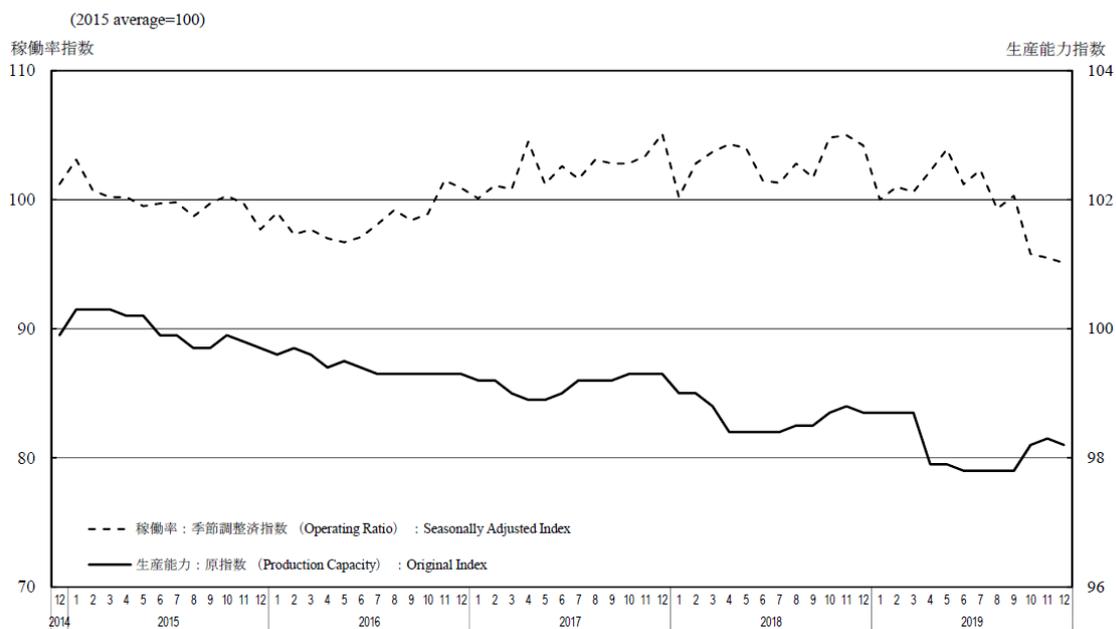
- (1) 12月の製造工業生産能力指数は、98.2で前月比-0.1%の低下であった。
業種別にみると、生産用機械工業同-0.9%、電気・情報通信機械工業同-0.1%が低下し、電子部品・デバイス工業同0.1%、石油・石炭製品工業同0.1%が上昇した。
- (2) 12月の製造工業稼働率指数は、95.1で前月比-0.4%の低下であった。
業種別にみると、輸送機械工業同-4.1%、電気・情報通信機械工業同-2.7%、汎用・業務用機械工業同-1.9%等が低下し、生産用機械工業同9.6%、金属製品工業同5.5%、電子部品・デバイス工業同2.4%等が上昇した。

製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表
Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

index.2015= 100

年 月	生産能力(末) Production Capacity			稼働率 Operating Ratio				Year and Month
	原指数 Original Index			季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		
2017年	99.3		0.0			102.3	3.9	C.Y. 2017
2018	98.7		-0.6			103.1	0.8	C.Y. 2018
2019	98.2		-0.5			99.8	-3.2	C.Y. 2019
2016年度	99.0		-0.6			99.2	-0.1	F.Y. 2016
2017	98.8		-0.2			102.7	3.5	F.Y. 2017
2018	98.7		-0.1			102.5	-0.2	F.Y. 2018
2018年 IV期	98.7	0.2	-0.6	104.7	2.7	105.7	2.0	Q4 2018
2019年 I期	98.7	0.0	-0.1	100.5	-4.0	101.5	-2.2	Q1 2019
II期	97.8	-0.9	-0.6	102.4	1.9	101.0	-0.8	Q2
III期	97.8	0.0	-0.7	100.6	-1.8	100.4	-0.6	Q3
IV期	98.2	0.4	-0.5	95.5	-5.1	96.4	-8.8	Q4
2018年 10月	98.7	0.2	-0.6	104.8	3.0	107.9	3.9	Oct. 2018
11月	98.8	0.1	-0.5	105.0	0.2	107.2	2.9	Nov.
12月	98.7	-0.1	-0.6	104.2	-0.8	102.0	-0.7	Dec.
2019年 1月	98.7	0.0	-0.3	100.0	-4.0	97.4	-0.2	Jan. 2019
2月	98.7	0.0	-0.3	101.0	1.0	99.8	-1.8	Feb.
3月	98.7	0.0	-0.1	100.6	-0.4	107.2	-4.5	Mar.
4月	97.9	-0.8	-0.5	102.2	1.6	101.6	-0.5	Apr.
5月	97.9	0.0	-0.5	103.9	1.7	99.7	-0.1	May
6月	97.8	-0.1	-0.6	101.2	-2.6	101.6	-1.8	Jun.
7月	97.8	0.0	-0.6	102.3	1.1	107.6	2.5	Jul.
8月	97.8	0.0	-0.7	99.3	-2.9	92.4	-4.8	Aug.
9月	97.8	0.0	-0.7	100.3	1.0	101.1	0.2	Sep.
10月	98.2	0.4	-0.5	95.8	-4.5	98.6	-8.6	Oct.
11月	98.3	0.1	-0.5	95.5	-0.3	96.1	-10.4	Nov.
12月	98.2	-0.1	-0.5	95.1	-0.4	94.5	-7.4	Dec.

製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)
 Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio



詳細は以下の経済産業省 HP をご参照下さい。(指数の動向資料 pdf へ)

https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2015_201912nj.pdf

3. その他の動向

■ 電子部品グローバル出荷統計

(一社) 電子情報技術産業協会 (JEITA)、2020年1月31日発表より抜粋)

【2019年11月概況】

- ・ 2019年11月のグローバル出荷額は3,171億円、前年比90.0%となり、前年比マイナスとなった。
- ・ 品目別出荷は受動部品(前年比86.8% 1,325億円)、接続部品(同90.1% 830億円)、変換部品(同86.9% 547億円)、その他の電子部品(同104.9% 467億円)となった。
- ・ 地域別出荷は日本(前年比82.7% 709億円)、米州(同77.5% 286億円)、欧州(同88.1% 306億円)、中国(同100.6% 1,232億円)、アジア・その他(同88.0% 640億円)となった。

【月別出荷金額】

1. 月別出荷金額(2020.01.31発表:毎月更新)

電子部品出荷額(億円)	2019年度						2019年度累計		
	9月		10月		11月		4月-11月		
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	
世界計	3,340	97	3,252	87	3,171	90	25,256	93	
(日本)	761	97	727	81	709	82	5,825	91	
品目別	受動部品	1,378	94	1,356	85	1,325	86	10,584	91
	コンデンサ	980	93	953	81	957	85	7,555	91
	抵抗器	122	90	121	81	115	80	972	87
	トランス	32	86	32	85	32	82	275	87
	インダクタ	240	101	244	101	217	95	1,756	97
	その他	3	133	4	159	3	102	25	99
	接続部品	878	99	842	86	830	90	6,695	95
	スイッチ	371	100	347	86	346	88	2,965	101
	コネクタ	503	98	491	86	480	91	3,699	90
	その他	3	65	3	57	3	68	30	74
	変換部品	614	98	570	84	547	86	4,478	91
	音響部品	118	91	130	76	126	75	956	80
	センサ	211	100	209	93	205	92	1,622	94
	アクチュエータ	284	100	229	82	216	90	1,899	96
	その他の電子部品	467	98	482	103	467	104	3,497	94
	電源部品	171	93	161	88	165	91	1,312	89
高周波部品	296	101	320	113	301	114	2,184	97	

【地域別出荷金額】

2. 地域別出荷金額

«2019年度»

地域別出荷金額(億円)	2019年度						2019年度累計	
	9月		10月		11月		4月-11月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,340	97	3,252	87	3,171	90	25,256	93
日本	761	97	727	81	709	82	5,825	91
米州	333	101	319	81	286	77	2,605	93
欧州	329	100	332	92	306	88	2,575	95
中国	1,238	96	1,211	93	1,232	100	8,992	92
アジア他	683	94	664	85	640	88	5,293	94

詳細は以下のJEITA(電子情報技術産業協会)HPをご参照下さい。

https://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html

以上